

ユズリハ



(撮影：桐原真希)

法勝寺にて

■しめ飾りを見てみよう

町内でよく見かける常緑樹の一つ、ユズリハ。今の季節、艶やかな緑色の葉と、葉柄(ようへい)の赤の対比が色鮮やかです。お正月飾りにも使われ、町内で作られるしめ飾りの多くは、橙(だいだい)の上に、横向きでユズリハの葉っぱが添えられます。春先に芽吹く若葉が、前年の葉を引き継いで代々続いていく様子に見立てた名の由来も、まさに縁起物です。日本では東北よりも西に生育し、韓国や中国の温かい地方にも分布しています。

■1月6日の誕生花

みなさんのご家族やお知り合いで、1月6日生まれの方はいらっしやいますか？この日の誕生花にユズリハが選ばれています。私の生き物好きのお友達に、この日生まれの女性がいいます。縁起の良さや、紺色の実と葉っぱの美しさ、花言葉が「若返り」と嬉しい意味を持ち、そして身近な植物であることから、ユズリハがデザインされたグッズをプレゼントしたいなど、以前から探してい

ますが、なかなか見つかりません。いつそ自分で作ってみようかと目論んでいますが、センスのないワタクシ、一向に実現できずじまいです。

■他にも仲間が

ユズリハのそっくりさんで、エゾユズリハとヒメユズリハという木があります。エゾユズリハは、東日本の日本海側に分布し、雪の多い森に生育しています。そして、ヒメユズリハは探せば南部町でも見つかるかもしれません。ユズリハよりも葉が小さく葉脈に編み目模様がはっきり見えたら要注意です。もしかしたら、まだ見ぬ姫様が、近くの裏山にひっそり枝を伸ばしているかもしれません。ずばりお正月の季語でもあるユズリハ、最後に、西村如葉(にしむらじよは)の句をお届けしましょう。
「ゆづりはや
やがて若葉に
玉の春」。



しめ飾りのユズリハ

自然観察指導員 桐原真希